

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102629		
法人名	有限会社 ヘルパーステーションぬくもりの家		
事業所名	グループホームぬくもりの家		
所在地	長崎県長崎市大手2丁目1番63号		
自己評価作成日	令和 3年 6月 27日	評価結果市町村受理日	令和3年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和 3年 7月 28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は古い木造の家で、経営者が昨年交代しましたが、グループホームとしては以前と同様に家庭的な空間を意識し、個人の意見を尊重し機能のレベル低下を少しでも緩やかにできるように、ラジオ体操後も軽体操、機能訓練、レクリエーション等に本人のペースに合わせて参加して頂いています。毎年家族の方の面会に来ていただくことが結構多い施設ではあったのですが今回は、コロナ禍で家族の方の面会の機会が多少は減っていますが、継続して気軽に来れるように家庭的な雰囲気をアピールして行きたいと思います。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームが住宅密集地の一角に位置することから、前面にある駐車スペースを近隣住民に無償で提供したり、緊急時の避難対応には隣接する店舗の方と緊急通報装置登録先として協力関係を築くなど、近隣住民との交流を大切にしている。コロナ禍以前は家族や地域住民が訪問する機会も多くあり、地域や家族からも信頼されていることが窺える。定期的に発行する「ぬくもりの家新聞」では、入居者の日頃の様子のほかレクリエーションや誕生会の様子など写真をふんだんに載せて伝えており、家族からも喜ばれている。昨年、経営者の交代を機に、管理者は意欲を持った職員採用、収支面での堅実な運営に一層取り組むと共に、職員の質の向上に努めることでこれまで以上に充実した入居者支援に繋げ、理念である「ぬくもり、笑顔、やさしさ、」を職員全員で実践し、入居者が自由にありのままの生活が送れるよう支援している。全居室には感染症対策用に空気清浄機を設置し、入居者が居心地よく過ごせるよう配慮している。医療面では提携する病院、関連する各種施設との連携を図ることで丁寧な支援を実現できており、今後も期待が持てるホームと言える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつも目に触れる所(エレベーター内他)に掲示し、チーム意識を持ち、理念を共有し同じ方向性に向かって行けるよう実践に繋がっている。	理念である「ぬくもり、笑顔、やさしさ」をリビングやエレベーターなど職員が目につきやすい場所に掲示すると共に、日頃から職員同士で理念に込められた思いを話し、支援を行うことで職員間の共有を図っている。管理者は理念に沿ったサービスが実現できているかを確認し気づいた点は随時職員へ助言し、職員が同じ方向性を持って職務に従事できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所との挨拶、声掛けを大切にし交流を図っている。季節の野菜や果物を頂いたりしている。又、ホームの駐車場を利用して頂いたり、お互い助け合いしながら信頼関係を深めている。	ホームは地域の自治会に加入しており、地域の情報は回覧板などを通じて把握できている。近隣住民にホーム駐車場の一時利用や、運営推進会議メンバーとして参加してもらうなど交流を深めている。管理者は積極的に地域住民への相談業務等による地域貢献への取り組みを検討するほか、提携病院の地域連携室等からの入居相談も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流を始め、運営推進会議等を通じて認知症高齢者の方々の理解や支援を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を実施し、ホームの状況や活動内容を報告し意見交換をしている。*今回は新型コロナウイルス感染症のために書面にての報告になっています。	現在、新型コロナウイルス感染症対策により運営推進会議を書面により実施しており、意見書を郵送し運営推進会議メンバーから意見を訊いている。運営推進会議は自治会長、副自治会長、民生委員、地域代表、市の担当職員、管理者で構成し、入居者の状況やホームの取り組みを詳しく報告している。	運営推進会議はホームの活動内容を理解してもらう貴重な機会と言える。特にコロナ禍の中では家族がホームへ来訪できない状況が続いており、ホームの運営状況を家族へ伝える一つの方法として、入居者個人情報保護に配慮した上で運営推進会議事録の写しを家族にも配布することに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村等の情報や資料は必要に応じて閲覧し、情報の共有をしている。運営推進会議では、市役所の方も参加されるので、情報交換を行い助言等も頂いている。	市の担当者(福祉総務課)が運営推進会議のメンバーであり、相談しやすい関係を構築している。担当者から適宜助言を得、必要時にはメールを通じた意見交換も行っており、問題等が発生した時には速やかに解決できるよう連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会において理解し身体拘束のないケアを行う	ホームの重要事項説明書第12条に「身体拘束等の禁止」を謳っている。身体拘束適正化の指針を作成し、定期的に職員勉強会も実施している。外部研修にも出席し、記録を職員へ回覧し理解を深めている。訪問調査時において身体拘束の実施が必要な入居者はいない。	身体拘束適正化委員会の明確な位置づけと委員会開催時の議事録の整備が望まれる。また、身体拘束適正化委員会の定期的開催、職員周知、やむを得ず身体拘束を行う場合の理由の記録を整備することが望まれる。今後、運営推進会議を活用するなど検討することに期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会は定期的に行われており意識を持って日々のケアに努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や書式を通してスタッフで学び理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や締結、解約の際は口頭や文章で説明を行い又疑問や要望がないかを伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍が長くなっている中にあっても、電話という手段をもって要望がないか等聴き、又それを共有できるよう申し送りノートの利用をしている。	家族からの意見や要望があった際は申し送りノートに記載し、職員間で共有している。「ぬくもりの家新聞」を作成し、入居者の日常の生活ぶりを定期的に全家族に伝えると共に家族意見の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常生活の中で、意見や提案など聞き対応し、普段から話しづらい雰囲気を作らないように心掛けている。職員一人ひとりが自分の考えや意見を話せるように時間を作っている。	毎月、職員会議を実施し、職員が意見を述べる機会を設けている。最近では新たに職員が入職し、古参の職員から助言を得ながら入居者を尊重した支援に繋げている。職員がキャリアアップを図れるよう資格取得に対する支援も積極的に取り組んでいる。管理者と職員の意見交換を図り円滑にホーム運営ができるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がいつも目に触れる所に掲示し、チーム意識を持ち、理念を共有し同じ方向性に向かって行けるよう実践に繋げている。働きやすい環境を作るよう管理者は、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの向上と力量を把握し、研修や勉強会を通じて、意識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の参加によりお互いの情報サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談時にゆっくりと対応、又傾聴して安心、安全に生活して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みや見学の段階より家族の不安や心配事に耳を傾け、家族の思いに寄り添えるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を確認しながら、ご本人にとって必要なサービスは何かを話し合い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の生活の中で一人ひとりができる事、やりたい事を見つけ、生きがいをもって生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談の際や電話連絡の際には近況を報告し、場合によっては本人にとって何がいいのかを一緒に考え支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今コロナ禍の中で面会はきびしいが窓越しでの面会に努め、ご本人とご家族のコミュニケーションが絶えないように努めている。	入居時に入居者本人の各種情報のほか、病院連携室の担当者からも情報を得、入居後に把握した情報を検討し、カラオケ、ぬり絵等、ホームで実施するレクリエーションに活かしている。馴染みの場所や人との継続支援については、現在、コロナ禍の為外出することが難しい。管理者はコロナ禍が終息した際に馴染みの場所や人との継続支援を再開する意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や状態を把握し、その人が好みとするレクや歌などで楽しく過ごせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご本人の状態を確認し様子を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	平素のかかわり、会話において意向、希望を把握しご家族へもお伝えする。	難聴や意思表示の苦手な入居者には必要に応じてホワイトボードを活用し筆談を取り入れその方の想いを聴いている。家族の意向は電話や面会時に聞き取り、必要な場合は介護計画書にも反映している。新規に入居した方には入居前の施設担当者から各種情報のほか、病院連携室の担当者からも情報を得、日々の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を理解しご家族からも情報を頂き、今までの生活により近い様に提供に努力する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の変化に気付き、より快適な過ごし方を有する事が出来るように努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホームでの暮らし方の要望を本人やご家族より確認。介護計画に組み込み、それについての意見も頂く。	プラン評価表を活用し、介護計画の見直し時の評価は担当職員が行い、担当職員のコメントとヒアリングを基に計画作成責任者が介護計画を作成している。医療面に関しては提携医が訪問診療した際に尋ね、意見を反映している。介護計画の内容は職員が確認し支援に活かせるよう入居者毎にファイリングし、手に届く場所に保管している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に残し、情報の申し送りで共有する。気づきや変化があれば実践や介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月1回の往診で健康管理を行う。又異状時は主治医への報告、受診する。病院受診後は家族様へ結果報告行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握して利用者がより安心して豊かな暮らしが出来るよう支援したい。今回はコロナ禍で消防署参加の避難訓練が行えませんでした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	利用者及び家族の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医との連携を密にしながら適切な医療を受けられるよう支援している。	月に1回、提携医が訪問診療を行っている。専門医への受診は家族対応となっているが、容態急変時の受診には職員が同行している。歯科は月4回訪問診療を行い、口腔ケアの指導を受けている。受診時はホームの看護師が同行して医療との連携を図るよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員である看護師と共に連携を取り看護的な把握も十分行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	安心して病院での治療が出来るように面会に行き、又家族家族とも連携を取り合い、医療関係との情報、報告を受け相談しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時や終末期に向けた方針については、入居された段階で説明を行い、同意を得ている。状態によっては、主治医、家族との相談、話し合い、状態変化や今後の事について共有している。	ホームでは看取りの指針を作成し入居時に説明し同意を得ている。容態急変など緊急時にはホームの看護師に連絡し即応できる体制を整備している。ホームで医療的ケアが必要となった時点で医療機関等へ転所することを検討し、ホームの看護師が家族へ説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い、急変時、事故発生時に対応できるようにしており、何時でもマニュアルや連絡体制が確認できるようにしている。事故後は対応、対策を話し合い再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回の避難訓練と毎月の会議事に勉強会や月例避難訓練を行っている。運営推進会議を利用して、地域の方々と協力体制を築いている。	年間消防訓練計画表に基づき、毎月避難訓練と災害に関する勉強会を実施している。今年度は新人職員が入職した月に夜間帯を想定した訓練を実施した。コロナ禍前は運営推進会議の開催に合わせ訓練を実施し、元消防署職員であった民生委員から助言を得ている。消防署の参加でAED使用方法、心肺蘇生法の指導を受けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシー、人権、人格は尊重し言葉使いにも気を付けている。	入居者への言葉かけ時は適正な声量で行われ、入居者が混乱を招かない対応に努めている。職員が居室に入室する際にはノックと声掛けにてプライバシーに配慮した支援に努めている。居室に置いているポータブルトイレは日中使用していない場合は布で覆い、不快のないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や声掛けで思いや気持ちの安定を押し測り自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の日々のペースを把握し、ご本人のペースを尊重し希望に添えるよう支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、鏡の前で容姿のチェックをして頂き、出来るところ、出来ないところを職員が判断、相談し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の楽しみの一つである美味しい物を食べることができるよう、栄養のバランスを考えながら好みに物を取り入れ、食べやすいように提供している。	食事は手づくりで、職員が交替で調理し、献立はバランスを考慮し、在庫の食材を見ながら前日と重ならないようにしている。入居者の咀嚼力に合わせて、食事形態を調整している。食器類は馴染みの物を使用し、摩耗した時点でホームで準備した物を使用している。誕生日等の行事にはイベント食としてちらし寿司等を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて献立を立てている。食事、水分量には注意し、記録することで状態変化があった場合に変更したりと状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと個々に合わせた口腔ケア(仕上げ)をしている。歯科衛生士の指導のもと、衛生、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し排泄の確認とチェックのもとトイレでの排泄、パットの種類考慮などをし支援している。排泄に失敗があっても、安心できる声掛けをしている。	ホームではできる限りトイレでの排泄を支援するため、排泄チェック表を用いてその方の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。失禁時の対応についてもさりげない声かけを行い、シャワー等を使用し、清潔が保持できるよう支援を行っている。家族の金銭的負担を考慮し、適正なパッド類の検討も随時職員間で行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体状態と排便状況を把握し、排便が困難な場合は、主治医の指示のもと、コントロールを行い、適切に排泄が出来るように努めている。適度な運動、食事内容にも気を配り予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせて、ゆっくりと入浴ができるように努めている。月曜から土曜日まで入浴日を設けているので状態、状況に応じて支援している。	週2回、午前中の中の入浴支援であるが、職員の配置状況などで臨機応変に対応している。シャワー浴のほか、冬場は湯温、時間帯に配慮しながら浴槽に浸かり、寛げる支援に努めており、入居者からも好評である。白癬等皮膚疾患がある場合は入浴順を考慮し、対応している。家族から入浴剤の提供もあり、入居者は楽しみながら入浴している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、その時々体調や状況に応じて、休息や安眠が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の内容や目的、副作用など理解して服薬の支援を行い、症状の変化を確認出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、本人が出来る事を見つけ出せるようにかかわりを多く持ち、能力や生活歴を活かして楽しみのある生活が送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら外泊、外出をして頂いている。天気の良い日は日光浴をしたり、又季節によっては花見に行ったりと気分転換を図っている。*今回はコロナ禍で外出する機会があまりありませんでした。	コロナ禍以前は長崎港までの外出や花見見物等の外出支援が行われていた。現在は好天時にホームの縁側で日光浴程度の支援となっている。季節柄、日中の日向ぼっこは陽射しも強く、疲労度を考慮し、夕方に線香花火をして気分転換を図るなど、外気に触れる機会を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が直接お金を持つことはないが、預り金としてホームで管理している。希望があれば家族に報告し、了解れば使えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は必要に応じて電話で話ができるように支援している。手紙やはがきが送られてきた時は本人が分かりやすいように説明し対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、換気に随時注意を払い環境を整えるように心掛けている。居心地がよい空間づくりに配慮し四季折々の物が感じられるように工夫している。	リビングには職員と入居者が一緒に作った季節毎のちぎり絵、貼り絵等を掲示し、季節を感じられるよう工夫している。定期的な窓の開放、遮光カーテンの使用で温度・湿度調整、換気を行い、感染症対策として除菌機能付きの空気清浄機を設置のほか、手摺なども次亜塩素酸水により消毒し、安心感のある共用空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士近くで過ごしている。思い思いに自分の部屋に戻りゆっくりと過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から本人、家族へ使い慣れた物を持ってきて頂き、必要に応じて心地よく安心して過ごして頂けるように配慮している。	居室は毎日夜勤者が棒雑巾を使用して床掃除を行うほか、週に一度、リネン交換時に清掃を行い、清潔保持に努めている。テレビ、仏壇など入居者が希望する物品が自由に持ち込まれており、家庭での生活の延長ができるよう配慮している。全居室には感染症対策用に空気清浄機を設置し、入居者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考慮し物の配置には注意している。出来ないこと、分からないことは言葉かけ等工夫している。		